

背景に存続への危機感

羽後高校で給食の提供始まる

羽後町にある県立羽後高校で学校給食の提供が始まりました。

生徒たちの健康、保護者の負担軽減など期待できる効果は多岐にわたりますが、県内の全日制の公立高校では初めてという給食の背景には高校存続への町の強い思いがあります。

羽後町唯一の高校県立羽後高校です。

25日、校舎に運ばれたコンテナの中には、熱々の炊き立てごはんが入っていました。

中学校以来となる学校給食に興奮した様子の生徒も。

「やべー、やべーめっちゃ手震える、やべ、やべ、やべー」

羽後高校への給食の提供は羽後町が一部の費用を負担して始めました。

背景にあるのが地元の高校存続への危機感です。

少子化が進み、小中高校の統廃合が全体的に進む中、羽後高校も定員割れが続いています。

2022年度は募集定員70人に対し入学した生徒は25人に留まりました。

こうした中、町は給食を羽後高校の新たな魅力の一つとしてアピールし、生徒数確保につなげたいと考えています。

安藤豊町長「(高校が)無くなると活気そのものがなくなってしまうので」「保護者のお母さんから言われた一言、羽後高校に給食あったらうちの子どもを進学させるんだもなっていう一言があってですね」

町の小中学校の学校給食を一手に担っている羽後町の共同調理場です。

1日あたり最大1200食を調理できますが、小中学校も児童生徒数が減り、2022年度作るのは1日あたりおよそ1000食。

羽後高校に給食を提供する余力があったことも実現につながりました。

生徒側の負担は1食あたり250円。

使用する運搬用のコンテナや食器などの費用は町が負担します。

25日の献立は地元で採れたキュウリでつくった春雨サラダに白身魚のフライ、それに具だくさんの豚汁。

栄養バランスは生徒たちの健康に、そして町の食材を使うことで地元への理解、愛着にもつながります。

羽後高校・平川研校長「保護者の負担の軽減っていうことにはすごくつながるんじゃないかなというふうに思っています。給食があるということが中学校の生徒の学校選択においても魅力の一つになってくれれば良いかなというふうに思っているんですけど」

地元高校の存続へ、町の強い思いがこめられた給食を25日は67人の生徒が味わいました。

(8月25日(木) 配信 ABS秋田放送)